

4 報告会

活動報告、防災士認証状の交付、講演、グループ協議

●実施日：令和元年12月21日（土）

●場 所：御茶ノ水ソラシティ

● スケジュール

12月21日（土）	
13:30～13:40	●東京都教育委員会挨拶
13:40～14:25	●活動報告
14:25～14:35	●「東京マイ・タイムライン」紹介
14:35～14:40	●防災士認証状の交付
14:40～14:45	●日本防災士機構理事長挨拶
14:55～15:30	●講演
15:40～16:25	●グループ協議
16:30	閉会



● 活動報告

都立高等学校、都立中等教育学校から集まった生徒と教員に対して、3校から活動報告が行われました。

最初に、都立稔ヶ丘高等学校の防災活動支援隊から、学校独自で設定している防災技術の科目での学習内容の紹介や、自校での宿泊防災訓練の取組内容について発表がありました。

続いて、合同防災キャンプの活動について、参加者を代表して都立青井高等学校から報告がありました。福島県環境創造センターや浪江町での視察、福島県立ふたば未来学園高等学校との交流活動、復興支援ボランティアについて、聴講者に分かりやすく、かつ、福島県の現状が伝わるように語り掛けていました。また、合同防災キャンプ参加後に、学校で取り組んだことについても発表がありました。

最後に、都立青梅総合高校から、防災士養成講座について報告がありました。宿泊研修先での養成講座で現地の講師から学んだことについて、実例も取り上げるなどして発表しました。さらに、平時と災害時に分けて、防災士として望まれる役割について説明がありました。

集まった生徒や教員は、これらの活動報告を聞き、防災について改めて考えを巡らせている様子でした。



● 防災士認証状の交付



活動報告の後、防災士資格取得試験合格者を代表して、都立青井高等学校3年の横田杏奈さんと都立青梅総合高等学校2年の久保柚葉さんが登壇し、特定非営利活動法人日本防災士機構理事長の高田恒氏から認証状を授与されました。起立した合格者一同とともに、会場からは合格を称える大きな拍手が沸き起こりました。

● 講演

発災時における対応と 地域に求められる防災活動



一般社団法人おらが
大槌夢広場
事務局長 神谷 未生 氏

一般社団法人おらが大槌夢広場において、機能の低下した分野の補完や外部への情報発信強化、地場産業やツーリズムの活性化、町民の起業独立支援等を行って神谷未生氏から講演いただきました。

神谷氏からは「発災時における対応と地域に求められる防災活動」と題して、東日本大震災の様子や対応、災害経験を踏まえた課題、首都圏で発災した時の高校生の役割、災害に備えた訓練についてお話いただきました。

(神谷氏のお話より)

まずはじめに、どれだけ防災の知識や意識を高めたとしても、発災時にできることはほとんどないということをお伝えします。突然の発災時に皆さんができることは「逃げる」ということ、若しくは「その時の状況からその場に留まるということが最善であるという自己判断の基に留まる」ということくらいです。この当たり前過ぎることができなければ、自分自身、そして大切な人の命を救うことはできないということを、まず肝に命じておいてください。

岩手県大槌町は、リアス式海岸の真ん中にあり、山と海に挟まれた狭い地域に密集して人々が住んでいました。東日本大震災時は、それまで津波が来ても安全だと考えられていた高台の山側の住居地域の高さにまで、津波が押し寄せました。そして、地震、津波の後、各建物に設置されているプロパンガスの連鎖爆発を原因とした大火災が発生しました。火は町を焼き尽くし、山火事にまで発展しました。鎮火宣言が出されたのは5月のことでした。

大槌町は、人口の8%以上に当たる1,286名が犠牲となりました。犠牲者のうち3分の

1の方がいまだ行方不明です。行方不明者が他の被災地と比べて突出して多いのは、火事による被害者が多いためです。

なぜ、1,286名の多くの犠牲者が出てしまったのかというと、「逃げる」という判断をする人が少なかったからです。それまで大槌町では、避難訓練などが定期的に行われていたものの、特に高齢者の中に、1960年チリ大地震の津波襲来時には大丈夫だったから、今回も大丈夫だろうという感覚が残っていたことが、大きな原因だと思います。また、突如の大地震による混乱により、様々な箇所での指揮系統がまひし、「逃げる」という指示がどこからも発せられなかったこともあり、自分の判断で「初動で逃げる」という意識を持った人が少なかったことも原因です。

そのような中、どこで誰から発せられたのか不明な指示やマニュアルを過信せず、「逃げる」という自分の判断が、生死を分けた事例がありました。災害は他人ごとではなく、自分に降りかかることという意識のスイッチを入れ、情報をうのみにすることなく、「自分の意思で避難をする」という決断をし、行動を取ることが大事です。



● グループ協議

講演に引き続き、神谷氏の進行で、6人ずつの49グループに分かれ、「災害時に高校生ができること」をテーマとしたグループ協議が行われました。

「1 地震が来ました。携帯も何もありません。自分取るべき行動について考えてください。」「2 あなたが緊急スイッチを入れる基準は。」「3 自分も逃げなければならない、しかし、周りの人も助けたい。そうした状況においてあなたならどうしますか。」という三つの具体的な設問について各自が考え、グループで意見交換を行いました。

